

宮市地区フィールドワーク

6月11日に江美城を探る会は、宮市地区のフィールドワークを行いました。

～宮市神社～

宮市神社には文政6年（1823年）の標柱や安永8年（1779年）の灯籠、安政5年（1855年）の狛犬など古くから残るものがありました。

【年代についてはそれぞれに彫刻されていたもの】

この中の灯籠には、たたら製鉄について書かれた「鉄山秘書」の著者である下原吉兵衛（重仲）の文字が刻まれており、安永8年に寄進したといわれています。



また、神社本殿や天神さんには、麒麟や隻眼獅子、見返り龍、鳳凰、鶯などの動物、さらに牡丹や菊、梅などの植物も彫刻されており、今でもはっきり見ることができました。



～学塔～

宮市には「学塔」という地名があったようです。そこには城跡のような平場があり、大山寺の寺務を執り行っていたといわれています。

～イゲ城～

また、宮市には「イゲ城」があったといわれています。城主は進氏であり、戦国時代以前の「城下集落」の特徴が見られるようです。

『江府町史』参照・下原吉兵衛（重仲）については【橋谷文献】参考



6月の西ノ丸会議！
朝の涼しい時間にみんなで作業をしました。



宮市地区のフィールドワークでは、末次砂恵子さんから昔の宮市で行われていた祭りのことや宮市神社のことなどを教えていただきました。

さらに、宮市神社の神主をされていた蘆立家の霊祀の見学もしました。霊祀には江美城の4代目城主「蜂塚右衛門尉」の名前も記されており、どのような関係があるか気になるところです。

蘆立家霊祀の裏面にある標記参照

出丸・城野尾丸跡

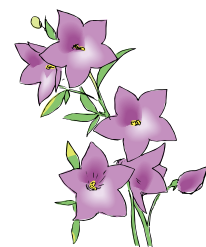
江美城の出丸である城野尾丸は、江美城の本丸跡と離れた山の中にあり、今回は整備をしていただいた後にスタッフで登りました。城野尾丸があったとされる場所には平場が2か所ありました。帰りは日野川に向かって曲がりくねった道を降りていき、最終的には国道181号線に出ました。かなり険しい道のりでした。



「江美城を探る会」9月講座予定

9月10日（日）
講座内容：米子城跡見学
（外での活動になります）

ガイド：仲田先生



©うえもんくん